

ACE 人権通信 7月

人権教育・啓発通信：「エース」
 発行：阿南中学校家庭・人権教育部
 (No.4) 2022年7月20日(水)
 文責：人権教育主事 中岡 和也

7月になり、暑い日が続いています。教室内ではエアコンがフル稼働していますが、生徒たちも暑さに負けじと頑張っています。

今月は学年別校内人権作文意見発表会がありました。また、県総体、コンクールなどを頑張っているまたは控えている生徒もいます。頑張っている仲間を応援できる阿南中生であってください。そして、頑張っている子はその応援に答えられるように悔いが残らないように力を出し切ってください。



◇阿南市人権教育・啓発市民講座に参加して

6月21(火)に阿南市人権教育・啓発市民講座で阿南市人権教育・啓発講師団の金井純子さんの講演がありました。「避難所における要配慮者支援と人権」という演題で、ご自身の体験談や過去の災害から学んだ問題点や改善点などを織り交ぜながら避難所での過ごし方についてお話をされました。災害が起こったときに互いに助け合い、支え合える環境がこれから大切となります。私たち自身がどのような行動をとれるか考えてみましょう。今回、講座に参加したPTA家庭・人権教育部の部員の方の感想を紹介します。



避難所生活で大事なことは、健康被害を出さないことや一人ひとりが自分で健康を守れるような環境を整えること。東日本・熊本地震の例などがよくわかった。地域の避難所をもう一度確認し、どんな災害にも対応できるようにしていきたい。今からできることをしっかり見直して、いざという災害に備えていきたい。

(岡久 美希さん)

災害時の避難所では、精神的な苦痛が一番大きいのだと痛感した。トイレの困難による水分を控えるようすることは、生命の危険が大きいと知り、備える物も考えなければならぬと思いました。また、女性や子どもなどへDVがある現状に心が苦しくなりました。守るべきために何が出来るか？みんなで考える必要があると思います。障がい者の方が利用を普段されている支援施設など避難所としてなることを知りました。私はその職員ですが、避難所となったときの人手不足などの問題があります。また、利用者やその家族が避難所として使えることはとてもよい考えだと思われるが、災害が起こったときに移動などが厳しい中での職員自体の家族や子どもと一緒に避難し生活が可能なのか？そこまでの補償を考えてほしい。

(八田 啓子さん)

災害発生後の避難所生活のリアルな写真などを見てとても勉強になりました。また、防災グッズを再度見直し、家族で一度は使用してみようと思いました。

今まで避難所について詳しい話を聞いたことがありませんでした。避難所に福祉避難所があることを初めて知りました。自分自身、避難を経験したことがないため、この講演会を機にいろいろな知識を得ることができてよかったと思います。これから起こる災害時に役立てていきたいです。

過去の災害から学んだ問題点や改善点について知りました。高齢者、障がい者、貧困者、女性、外国人などはストレスをためるDV、性暴力を受ける等で、難を逃れて助かった命を繋ぐことができないこともある。私たちは、一人ひとりがこのような現状・問題点を知り、自分にできることを考えるとともに、災害に備えることが大切だということ学びました。

(吉岡 智絵さん)

◇学年別校内人権作文意見発表会を終えて

7月12日(火)・13日(水)・15日(金)の三日間に学年別校内人権作文発表会を行いました。各学級から代表1名が日々の生活で感じていることや、人権学習を通して気付いたことなど様々な視点から人権を考え自らの意見を発表しました。

『第1学年』

学 級	代表者名	題 名
1-1	佐藤 柑奈	「自分らしさを通して」
1-2	大津 朱璃	「私の祖母」
1-3	庄野 稟子	「いろんな個性」
1-4	山本 ゆな	「ピンク色」
1-5	八木 啓太郎	「言葉の力」



・楽しい
 ・思いやり
 ・助け合い(数人)
 ・メリハリ
 ・一人の子供に
 ・注意しあえる
 ・強さを出しあえる
 ・お礼が言える
 ・仲がいい

3班

僕は、5人の発表を聞いていて、1つ共通点を見つけました。それは、他の人の個性を理解することや考えることが大切と言っているところです。特に僕は、「言葉の力」という発表が心に残りました。理由は、悪口を言われたらいい気分にならないけど、感謝の言葉を言われたら、とてもうれしい気持ちになるなど、言葉で相手の気持ちを動かされるのはすごいと思ったからです。
(1年 表原 優心)

僕は、「ピンク色」が一番心に残りました。理由は、自分もピンク色というのが好きだからです。でも、小さい時はなかなか声に出して、好きということではできませんでした。なぜなら、その当時ピンク色は女の子だというふうに思っていたからです。今となっては、その当時の思いこみも差別だったのだと思います。これからは、自分も周りの人の意見を尊重できる人になりたいです。
(1年 吉村 大祐)

「第2学年」

学 級	代表者名	題 名
2-1	請田 和花	「輝く個性」
2-2	讃岐 優奈	「優しい言葉と行動は世界を救う」
2-3	楫 健太郎	「今、自分にできること」
2-4	山本 あおい	「多様な性の認め合い」



私は、これから「できてあたりまえ」、「人をバカにする」、「差別する」、「見て見ぬふりをする」この4つを絶対にしないようにします。自分の一言で誰かの心を傷つけたり、悲しい思いをさせたくないからです。全員がこの4つを守れば、きっとみんなが楽しく生活できると思います。これからも人との関わりを正しくもっていきたいです。
(2年 下谷 小春)

私は、4人のなかまの発表を聞いて、つらい時や傷ついた時に寄り添ってくれたり、はげましてくれたりする仲間を大切にしようと思いました。そして何より、自分のさりげない一言で誰かにつらい思いをさせないようにしたいと思いました。私の一言で誰かを救えるかもしれないので、言葉やその人の個性を大切にしていきたいです。
(2年 鳥海 葉月)

「第3学年」

学 級	代表者名	題 名
3-1	橋本 結	「性別という捉え方」
3-2	四宮 万愛	「いろんな人の思い」
3-3	前川 碧海	「本当にそう思っていますか」
3-4	前川 蒼波	「障がい者差別」
3-5	岡本 日菜子	「平和な世界を目指して」



「本当にそう思っていますか」という言葉が心に残りました。いじめに限らず、戦争や差別に反対していても、どこか他人事のように考えてしまっているのかもしれないと思いました。これらの問題について自分事のように悩み、解決していこうと気持ちを改めました。自分の弱さに気づき、人を傷つけることがないようにしたいです。
(3年 中川 涼音)

「人権」とは、様々なことに関係するものだと思います。「人権」で何より大切なことは相手思いやる心です。相手の気持ちに寄り添う優しい行動で救われることがあります。だから、相手を思いやる心を常にもてるようにしたいです。私は、特別な人間ではないけれど、優しさは誰よりももちたいと改めて思いました。
(3年 山内 悠生)

◇識字学級を訪問して

7月15日(金)に第三学年の代表10名が識字学級を訪問し、一緒に学習をしました。前半は漢字を書き、後半は人権学習をしました。人権学習では、識字学級の生徒さんに質問をして、部落差別によりこれまで「辛い、悲しい、悔しい」思いをしてきたことを聞きました。全員が一致団結して部落差別を解消していく決意を固めました。

